



その“レトロ” ちょっと待った～！ ～古いエアコン・扇風機の事故に注意～

1. 事故の発生状況

2019年度から2023年度の5年間にNITEに通知された製品事故情報^{※1}のうち、九州・沖縄8県でエアコン^{※2}・扇風機^{※2}による事故は合計47件^{※3}ありました。

(1) 県別および年度別事故発生件数（表1-1, 1-2）

表1-1 エアコンの県別および年度別事故発生件数（2019～2023年度）（単位：件）

事故発生年度	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
2019年度	1	2		1		2		2	8
（内数）火災	(1)	(2)		(1)		(2)		(2)	(8)
2020年度	5		1	1				1	8
（内数）火災	(5)		(1)	(1)				(0)	(7)
2021年度	3	1	2	1	1	1			9
（内数）火災	(3)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)			(9)
2022年度	4		2	2	2				10
（内数）火災	(3)		(1)	(2)	(2)				(8)
2023年度	3	1				1		1	6
（内数）火災	(2)	(1)				(1)		(1)	(5)
合計	16	4	5	5	3	4	0	4	41
（内数）火災	(14)	(4)	(4)	(5)	(3)	(4)	(0)	(3)	(37)

表1-2 扇風機の県別および年度別事故発生件数（2019～2023年度）（単位：件）

事故発生年度	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
2019年度									0
（内数）火災									(0)
2020年度	1								1
（内数）火災	(1)								(1)
2021年度									0
（内数）火災									(0)
2022年度		1						1	2
（内数）火災		(1)						(1)	(2)
2023年度	3								3
（内数）火災	(2)								(2)
合計	4	1	0	0	0	0	0	1	6
（内数）火災	(3)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(5)

※1:消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

※2:エアコン及び扇風機の対象範囲は、全国版のものに準じています。

※3:重複、対象外情報を除いた事故発生件数です。

(2) 県別および被害状況別事故発生件数（表2-1, 2-2）

表2-1 エアコンの県別および被害状況別事故発生件数（2019～2023年度）※4（単位：件）

被害状況	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
人的被害	死亡	1			1				2
	重傷	1							1
	軽傷								0
物的被害	拡大被害	12	4	5	3	2	3	3	32
	製品破損	2			1	1	1	1	6
被害なし・不明									0
合計	16	4	5	5	3	4	0	4	41
合計（火災事故）	(14)	(4)	(4)	(5)	(3)	(4)	(0)	(3)	(37)

表2-2 扇風機の県別および被害状況別事故発生件数（2019～2023年度）※4（単位：件）

被害状況	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
人的被害	死亡								0
	重傷								0
	軽傷								0
物的被害	拡大被害	2	1					1	4
	製品破損	2							2
被害なし・不明									0
合計	4	1	0	0	0	0	0	1	6
合計（火災事故）	(3)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(5)

※4: 表2-1, 2-2において人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしません。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としています。

2. 事故事例

(1) エアコンの事例：2021年8月（宮崎県、年代不明、女性、製品破損）

【事故の内容】

当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

当該製品は、制御基板近傍に設置されたコンデンサーから出火したものと推定されるが、コンデンサーの焼損が著しく、製品起因か否かを含め、事故原因の特定には至らなかった。

(2) 扇風機の事例：2020年6月（福岡県、年代不明、性別不明、製品破損）

【事故の内容】

当該製品を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

当該製品は、長期使用（52年）により電気部品が劣化し、異常発熱したため、内部に堆積していたほこり等に着火し、出火したものと推定されるが、当該製品の詳細を確認できなかったことから、製品起因か否かを含め、事故原因の特定には至らなかった。



3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構」+「NITEのロゴ」としてください。

(本件に関するお問い合わせ先)

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所 担当者 清水
電話:092-551-1315 FAX:092-551-1329